

平成 25 年度

事業所名 : グループホーム しずくいし (2階 かっこう)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372100966		
法人名	有限会社介護しずくいし		
事業所名	グループホームしずくいし (2階 かっこう)		
所在地	岩手県岩手郡雫石町西安庭第15地割81-26		
自己評価作成日	平成26年2月15日	評価結果市町村受理日	平成26年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0372100966-00&PrefCd=03&VersionCd=02
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成26年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

園芸療法、音楽療法を行事の一環として行っています。地域と連携しながらご本人がより安心して暮らせる場の提供を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は岩手山を背に前面に御所湖を望み近くに温泉地がある。周囲は農村風景が広がる閑静な丘陵地帯の南面に位置している。開設からは10年が経過し利用者の心身の状況も徐々に低下してきているが近所を散歩している時などには気軽に声かけ等をしてくれたり、除雪を行ってくれたり地域との理解や協力は深まっている。建物の前には広い庭があり、園芸療法や畑仕事、花作りと利用者の活動の場として利用されている。月に1回ではあるが外部講師を依頼し音楽療法を行い利用者からの好評を得ている。1日のスケジュールは利用者との話し合いで進め日々の食材の買い出しや配膳・掃除等を皆で行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム しずくいし (2階 かっこう)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送時に理念を唱和し実践につなげている。	法人の理念と事業所の理念を毎朝唱和している。昨年の4月には管理者と1階のリーダーが法人の理念についての研修を受け改めて理念の大切さを理解し、職員に伝達講習し、全職員で理念の理解と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りなど地域の方々を招き交流の機会を図っている。夏休みのラジオ体操に参加する子供たちに場所を提供している。	子供会が夏休みのラジオ体操の場所として利用し、以前は利用者も一緒に体操していた。事業所が開催する夏祭りには地元の方が参加したり、除雪も依頼がなくても行ってくれたり日常的な交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報等の作成、配布を行い地域への人々へ取り組みを理解してもらうよう努めているが充分とはいえない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月ごとの運営推進会議にて、民生委員、区長、役場の方々と情報交換をしている。	今年度より新たに利用者代表1名が会議に加わって開催している。事業所の活動報告を行い民生委員等からは地元の情報等の提供がある。	情報交換だけの会議になりがちなので、今後はサービスの向上にまで繋がるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政担当者と疑問があれば相談するようにしている。また運営推進会議時に情報交換を行っている。	運営推進委員にも担当課の職員が出席しており、常日頃何か分からない事があればすぐに相談できている。広報誌の届けや行事の案内等で情報交換したり、地域包括支援センターとの交流も図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束の意味をほぼ理解している。ミーティングの際等の際に随時啓発に努めている。緊急時以外など日中は施錠しないようにしている。	身体拘束の弊害についての理解はしており、自由な行動を制限する施錠等は行っていない。夜間のみ外に出たがる利用者があるため家族の同意を得て施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、虐待防止につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している方がいるが、職員個々の理解は十分とはいえない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時 行き違いがないように十分に説明するよう注意している。また契約時の注意点など事前理解ができるよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を定期的に開催し実施している。(年2回)	年2回、家族会を開催し、事業所の取り組む状況等の説明をし、家族等からは意見を出してもらっている。参加家族が2回とも少ないので今後も働きかけるとのことである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎時経営会議時など 職員の意向を管理者が聴き、会議時に伝えるようにしている。	職員は管理者等には意見は出し易い環境である。出された意見は社長や管理者等が出席する経営会議時に報告し、最近では入浴場所の改善や2階階段の改修が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	定期的に職員の様子を聞き取り、向上心をもち働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修があり、必要時職員が受講できるように支援している。また内部での勉強会の機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループ内での行事での交流の機会などがある。またグループ内で勉強会の機会があり全体のサービスの質の向上にめけて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にホームを見学して頂く等スタッフの情報共有に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	情報に目を通したうえで本人家族に接したうえで信頼関係づくりに努めている。また申請後面談の際はスタッフ2名で説明 確認するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	もらった情報に基づき必要な支援を検討し、ケアプランの作成時、カンファ時検討し合い支援に生かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることはして頂き、様々な経験や生き方を教えて頂ける先輩として接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の事やお便りや面会時等連絡し、入居者の状態等を話しながら会話しながら関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ、買物等へ行き馴染みの人に合う等している。	墓参に家族が連れていったり、お正月やお盆には外泊するなどしている。また日常の買物に利用者も同行し買物先で知人や友人と顔を合わせるが多々あり、交流を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事等を通じ、また食席の配置にもスタッフが気を配り利用者同士が交流できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	環境の変化に対応できるように次の受け入れ先の情報をできるだけ詳しく伝える様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の出来事を記録し、入居者の意向や希望をスタッフが把握し 3か月ごとのケアプランの見直し時に本人家族より意向を確認している。	部屋の担当者が中心となり利用者・家族の意向の確認を常時行っている。日常の様子は介護記録に記載し職員が共有し、援助に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センターシートの活用をしその方の生活歴について必要時家族にも記載協力をお願いするなどしている。また会話の中から思いや願を引き出すように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申し送り等で把握している。またスタッフが1日二回の健康チェックを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントをもとにカンファレンス時全職員の意見交換を行っている。居室担当者がプランの素案を作り原案を全体で作っている。	カンファレンス・モニタリングとも月に1回開催している。利用者や家族の意向に沿いつつ、職員からの意見を踏まえ、心身の機能低下防止に重点を置き、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	チャートへの記載やチェック表を活用し申し送りで共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リーダー研修受講者がおりGHでの空床を利用してのショートステイが対応できる。必要に応じて車椅子での対応の場面もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の農家から野菜を頂いたり、ホームの敷地にある畑で採れた果実の収穫など日々の恵みを感じて頂けるよう支援している。月一度訪問理容サービスで理髪ができる。また年に一度公民館を利用し作品展示会に出品したりする機会がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時必かかりつけ医を確認し必要時情報提供に努めている。また医師、看護師とコンタクトをとる心がけている。	利用者・家族の希望するかかりつけ医となっている。通院は家族が同行しているが利用者の状況は1ヶ月分のまとめを看護師が記録し家族に渡し、かかりつけ医に情報として伝えている。またかかりつけ医から指示等があった場合には口頭で家族から報告がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調の変化気付きは看護師に報告し、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療情報シートを活用している。また協力病院があり、連絡調整を看護師が行っている。情報交換を行いながら早期に体調不良の見際めを行えるように週に一度看護師による健康チェックを行っている。必要時には主治医と連絡調整を行い早期受診、早期退院を心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い次の生活環境としてのステージ、特別養護老人ホーム老人保健施設などの情報提供を行っている。出来るだけ早期に見極めるように努め、ご家族へ説明をする。看取りの指針を作成しご家族へ説明し同意を得ているが、重度化、看取りへの研修の機会が少ない。チーム内での十分な共有化、チーム力の向上を図りたい。	看取り指針があり、家族に説明しているが事例はない。重度化に伴い今後についての不安が家族にあり、特養や老健等の道があることを説明しているが利用者が重度化しないよう日常の取り組みに重点を置いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法の講習会を全職員が行った。マニュアルに従い急変時 事故等に備え勉強会等で自己研磨に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は婦人消防協力隊を交えた避難訓練は実施できなかったが、災害対策マニュアルの作成、職員への配布するなど夜間緊急通報訓練を実施している。	実際の地震や水害を経験し、マニュアルの見直しを行い職員に配布し夜間緊急通報訓練を実施している。婦人消防隊の参加による災害避難訓練は調整がつかず実施できないでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にも掲げ毎朝唱和している。トまた、トイレの位置にカーテンを設けるなどプライバシーに配慮するなど声がけなどにも自尊心を傷つけないような声がけを心かけている。	運営理念「プライバシーの尊重」や「その人らしい暮らし」を掲げて声かけや介助の実施に活かしている。既存の建物を利用しているためトイレの入口が見えることよりカーテンを設置するなどプライバシーに留意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向に耳を傾け、本人の思いを否定しない声がけをするよう職員は心がけている。利用者の表情をみながら会話をし、自分で決められるようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り本人の希望を伺い、柔軟に対応している。個々のペースに配慮しながら職員は日常を見守っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院を利用している入居者がいる。入浴時等ご自分で着替えなど準備出来る方はしていただき、外出の際は職員がアドバイスしたりしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフは入居者が楽しく食べることを考え調理し、また入居者も可能な限り料理作りに参加できるようにしている。	食材の買い出しや調理・配下膳等、それぞれの利用者ができることを自発的におこなっている。食事中は会話も弾み楽しい食事場面となっている。献立は職員がたてるが、利用者からの要望等聞きながら対応している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	小さく刻んだり量の調整を行い無理なく食べて頂けるよう支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後、利用者一人ひとりに声がけを行い、口腔のケアを支援している。また、訪問歯科診療がある。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をチェックし、個々の排泄パターンに応じた声がけを行い、自立した排泄が出来るように全体で取り組んでいる。	個々人の排泄状況について排泄チェック表や使用パットをチェックし、カンファレンス等で職員間でどの部分を介助すればトイレで排泄できるかを話し合いながら援助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要時医師に確認し下剤調整を行っている。また歩行練習 水分調整も注意しながら排せつ介助の際必要時腹圧マッサージ等も行うようにしている。また食事や飲み物で調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否のある方などは 時間をずらすなど継続的に入浴支援が出来るようにしている。また職員で検討しあって個々の状況に応じた支援ができるように努めている。おおよその時間帯を決めているがゆっくりと入浴を楽しんでいただけるようにしている。	入浴の日や時間はおおよそ決めているが限定せず個々人の状況に配慮して、臨機応変に対応し、楽しく安全な入浴が継続できるようにしている。1日に3人程度の入浴とし、予定者の血圧測定の結果で午前・午後のいずれかの入浴としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	足浴や湯たんぽの活用、必要時居室内の空調の調整などもし安心して良眠が保持できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ガーデックスに通院記録と処方シートを保管してするなどし誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出の機会があり本人が可能な限り希望に沿って出掛けられるように支援している。買物 生活歴に基づき外食 ドライブなど行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節行事での外出のほか 希望があればその人の誕生日など行きたい所へ出掛けるなどしている。墓参などにご家族が外出へ連れていってくださる場合もある。	冬期間は外に出る機会は少ないが暖かい期間は季節行事の外出や近隣への日常的な散歩の他美容院等への外出支援を行っている。また買物にも職員と一緒に出かけたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお金を預かって事業所が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な限り本人の希望により電話をかけられるよう職員が支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの壁に行事で写した写真、他施設の広報、季節の折り紙など飾っている。	ホールは採光が良く岩手山が眺望でき、季節の移ろいを肌で感じられる。明るい雰囲気の中で食事や会話を楽しんでいる。季節に合わせて利用者と共に作った装飾品や小物、最近の行事の様子を写した写真等が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人使用のテレビ、椅子、鉢植え、家具等が置いてあり個々に工夫されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人使用のテレビ、椅子、鉢植え、家具等が置いてあり個々に工夫されている。	南向きに面した居室がほとんどで日差しがあり、暖かく景色も良い。テレビ・家具・装飾品等を持ちこんでいる。社員寮の個室を買い主しでもクロゼットは広く整理しやすく時には利用者同士で集い談笑している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人で歩行できるように手すりを設置し、ご自分で衣類整理できるように紙を張ったりしている。各居室のネームプレート、トイレや風呂場の表示 段差の注意書き等 できること職員は 分かる事を最大限に生かせるように見守っている。		